

経済振興委員会報告資料

博多旧市街プロジェクトにおける
観光拠点の検討状況について

令和 6 年 9 月
経済観光文化局

■博多旧市街プロジェクトにおける観光拠点の検討状況について

令和5年12月議会において報告した**博多旧市街の歴史・伝統・文化をいつでも体験できる機能**や、**観光情報の発信機能**など、**周遊の起点となる観光拠点**の整備に係る検討状況について報告するもの。



1 検討状況について

- 博多旧市街エリアの施設管理者や伝統文化等の関係団体に対し、施設運営の現状や、博多旧市街に求められる機能等についてヒアリングするとともに、他都市事例の調査を実施。

■ヒアリングの概要

実施先…「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、博多伝統芸能館、博多織工業組合
博多人形商工業組合、博多伝統職の会、博多祇園山笠振興会、博多松囃子振興会
項目…施設運営の状況、周辺施設との連携、旧市街に求められるもの 等

(1) ヒアリング結果（市有施設）

■「博多町家」ふるさと館

面積：1,234㎡
開館：平成7年8月



■はかた伝統工芸館

面積：173㎡ [281㎡]
開館：令和3年4月 [平成23年4月]



①施設の現状

- ・はかた伝統工芸館は冷泉小跡地の発掘調査に伴い、福岡市博物館に一時移転している。
- ・休憩スペースや十分な企画展示スペース、団体を受入可能な体験スペースが不足している。

②集客の現状

- ・県外や海外からの観光客が多く来訪する観光スポットになっている。
- ・「博多町家」ふるさと館では、有料施設（展示棟）の入館者数が減少傾向にある。

③運営の現状

- ・近隣の寺社仏閣や施設、イベント等と連携した体験講座を実施。
- ・博多旧市街エリア以外の観光案内を求められることも多い。

(2) ヒアリング結果（関係団体）

- ・まつりや伝統工芸等の継承、発展のため、更なるPRによる認知度向上、販売促進等が必要。
- ・観光客が伝統文化とふれあう場や体験機会の増加が必要。
- ・伝統工芸の展示機能等が複数施設に配置されており、観光客にとってわかりづらい。
- ・観光客の周遊をエリア全体に広げるための連携体制の強化やイベント実施等が必要。

2 石積み遺構について

- ・令和5年10月の答申を受け、**令和6年2月21日に国指定告示**。
- ・今後、石積み遺構の活用に向け、関係者協議を実施、保存活用、整備に向けた計画策定を目指す。



3 主な課題と拠点整備の考え方

(1) 主な課題について

○ヒアリングを踏まえた主な課題は以下のとおり。

- ① 博多旧市街が有する観光資源の魅力を観光客に十分に届けられていない。
- ② 既存の市有施設のスペースが狭小であり、展示手法、体験スペースが限られている。
- ③ 博多旧市街エリアの周遊、滞在時間の増加に資する、連携、情報発信が不足。

(2) 拠点整備の考え方について

- ① **デジタル技術も活用**した歴史・文化の**常設体験**の提供等の検討。
- ② 「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館の**機能の再編・拡充**。
- ③ 寺社・観光スポットと**連携した観光案内、情報発信の強化**。

(他都市事例)

■ VR等を活用した歴史体験



(福山城博物館：広島県福山市)

■ 団体受入可能な体験スペース



(くまもと工芸会館：熊本県熊本市)

■ 観光案内やチケット販売等



(浅草文化観光センター：東京都台東区)

(3) 拠点整備の候補地について

○石積み遺構の活用と一体で検討が可能で、観光拠点の地域要望がある冷泉小跡地をはじめとして、**エリア内の集客状況や既存施設、観光資源との相乗効果等**の観点から、候補地を検討する。

4 今後の進め方

- 観光拠点の検討にあたっては、引き続き関係者協議や他事例調査等を行うとともに、さらに有識者ヒアリングや地域とも意見交換しながら検討を進める。
- 適宜議会への報告を行いながら、導入を検討する機能、規模、場所等観光拠点のあり方を整理し、具体的な事業手法、事業スケジュール等事業化に向けた検討を進める。

観光拠点のあり方策定に向けた進め方(案)

